

大山盛保生誕100年記念特別シンポジウム

港川人研究と2万年前の沖縄

◆◆◆ はじめに ◆◆◆

1967(昭和42)年から1970(昭和45)年にかけて八重瀬町内にあった採石場内のフィッシャー(石灰岩の裂け目)から那覇市の実業家、大山盛保氏(故人)によって5から9体分の化石人骨が発見されました。

「港川人」と名づけられたこの人骨は、放射性炭素年代測定法から約18,000年前の人骨と考えられており、これまで東アジアで発見されている更新世人類化石の中では最も保存状態が良く、日本列島への人類の到来を探求する上で重要な化石と位置づけられています。

八重瀬町では、発見者の大山盛保氏生誕100年を記念して、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館にて企画展を行いその関連事業としてシンポジウムを開催します。

このシンポジウムでは、港川人に関する研究者を招聘し、港川人の最新の研究を中心に講演及びコメント・質疑応答を行います。

本シンポジウムが、沖縄の更新世人類の重要性と、ウチナーンチュのルーツについて学び考える機会となることを願います。

◆◆◆ プログラム ◆◆◆

13時開演(12時30分開場)

〔基調講演〕

大城 逸朗 (おきなわ石の会 会長)

「港川フィッシャー遺跡が語る琉球の地史とその意義」(60分)

～琉球列島の地史に占める港川フィッシャー遺跡の重要性について～

松岡 廣繁 (京都大学大学院理学研究科 地質学鉱物学教室)

「鳥類化石から見た港川フィッシャー遺跡の重要性」(60分)

～港川フィッシャー遺跡の鳥類化石を中心に、

化石群から見た琉球の動物相の過去・現在・未来を考えます～

山崎 真治 (沖縄県立博物館・美術館 主任)

「サキタリ洞遺跡の発掘調査と沖縄の旧石器時代」(60分)

～サキタリ洞での近年の発掘調査成果の報告～

司 会：藤田 祐樹 (沖縄県立博物館・美術館 主任)

〔コメント・質疑応答〕

馬場 悠男 (国立科学博物館 名誉研究員)

知念 勇 (沖縄考古学会 会長)

大城 逸朗 松岡 廣繁 山崎 真治

◆◆◆ 合同企画展 「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」 ◆◆◆

●八重瀬会場(八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館) …… 2012年10月23日(火)～2013年1月20日(日)

●おもろまち会場(沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展示室) …… 2012年12月7日(金)～2013年1月20日(日)